山村塾は都市と農山村の住民が一緒になり環境にやさしい米づくりや
豊かな生態系の森づくりを通じて山村の環境を守るグループです

2020年7月号

こめづくり もりづくり ひとづくり

山村塾通信

「自然の恵みと災禍」

熊本県など全国各地で大雨による災害が発生しました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。山村塾が活動する笠原地区では、護岸や道路の崩落、農地や水路の被害など小規模な被害が発生しましたが、大きな被害ではないことを報告させていただきます。ご心配お見舞いの連絡、ありがとうございました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のために３月から５月までのイベントを休止していましたが、６月以降は感染対策に気をつけながら少人数でのイベントを実施しております。

自然豊かな日本は幾度となく自然災害に悩まされながら、その折り合いを模索してきました。かつての暮らしは、偉大な自然を畏れながら、伺いを立てて謙虚に生きて来たのではないかと思います。一人一人の目の前に自然の姿が見えていたはずです。しかし今は、人と自然の間に様々なものがあり、自然の豊かさや危険が見えづらくなったように思います。頑丈な防災システム築くことは確かに目の前の危険から身を守ってくれますが、自然に対する危機意識からは遠ざかってしまうという別の危険を感じます。

九州大学の島谷幸宏教授（河川工学）があるシンポジウムで話されていたことを思い出します。「災害が起きた瞬間は、まず命を守る。次に、壊れたものを直す復旧の段階。そして長い復興の段階になる。復興計画を立てるときはまだ非常時なので、生命・財産の安全性が優先される。地域の文化や暮らし、環境や安全もセットで地域に戻すことが復興だと認識し、次の世代のことを考えた復興が必要です。こういう形で時間が経過し社会が変わっていくという知識と強い心がないと持続的な復興はできません。」

非常時は、シンプルで強いメッセージが優先されがちですが、日常で大切だった小さなことにも目を向け、小さな声に耳を澄ましながら未来を想像したいものです。コロナ禍もしかり。仕事や生活に苦労をされることも多いと思いますが、辛抱強く時間をかけて向き合っていきましょう。皆さんとまた棚田や山で一緒に活動することを楽しみにしております！（小森 耕太）

（参考）矢部川シンポジウムでの島谷先生基調講演「2012、2017 豪雨災害」（※矢部川新聞 11 号に記事掲載）
http://www.yabegawa.net/332/

８月２日 稲作コース「田の草取り」

稲作コースより

3月から5月にかけて休止していた活動コースを、6月から再開しました。稲作コースは、定員と時間を縮小し、作業を行わないかたちで「田んぼと鴨の見学会」を3回行いました。

6月は、田植えをしてアイガモのヒナが田んぼに入ります。稲が植わったばかりの棚田が美しい頃です。見学会では、久しぶりに再会したみなさんと2時間かけて田んぼの周りを歩き、アイガモを見学をしました。6月の回ではちょうどヒナが孵化する瞬間に立ち会うことができました！米づくりのことをじっくり紹介したり、みなさんと近況をおしゃべりしたりと、いつもの行事とはまたちがった、良い時間となりました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました！

8月からは、通常に近いかたちでの活動を予定していますが、まだしばらくは定員を少なくしての募集となります。よろしくお願いします。（原 愛子）

◆**6月14日（日）「田んぼと鴨の見学会①」**
参加者：16名（会員12、スタッフ4）
場所：四季菜館周辺

◆**6月21日（日）「田んぼと鴨の見学会②」**
参加者：17名（会員13、スタッフ4）
場所：四季菜館周辺

◆**7月12日（日）「田んぼと鴨の見学会③」**
参加者：11名（会員6、スタッフ5）
場所：四季菜館周辺

6/14 見学会

7/12 見学会

6/21 見学会

農家の声

皆さんこんにちは、稲作コースの誠です。この文面作成日は7月20日月曜日です。今年ほど避難勧告が幾度となく発令されたことが今まであっただろうかと思うほど今年もたくさん雨が降りました。そしてまだ梅雨も明けておらずぽちぽちまだ雨が降りそうです。とても蒸し暑い日々を過ごしています。

7月5日に四季菜館の田植えが終わり半月が経ちました。大雨が降りしきる中、かっぱを着て避難勧告が出つつも着々とカモを田んぼに入れる準備を強行し、田植え後一週間以内に全ての田んぼにカモを入れることができました。1年の中で毎年6月は一番短く感じます。ちなみに2番目は餅つきで忙しい12月です。

毎年恒例、稲作コースの「田植え」がコロナウイルスの影響で「田んぼの見学」に変更になり、会員の皆さんと顔を合わせる機会が減ってしまいました。毎年イベントとして手植えしていた棚田の上部3段を四季菜館としては初めて機械で植えました。来られた事のある方は分かるかもしれませんが、2段目の田んぼに入るには、下の3段目の途中の道から入ってきます。そこの道がとても急な坂道になっており、おまけに結構狭い。トラクターは何とか登れますが田植え機が無事登れるか心配してましたが、何とかかんとか登りきり、田植えをすることができました。実は結構ヒヤヒヤでした。

まあ、いろんな意味で来年こそはコロナウイルスも落ち着き今まで通り、皆さんと一緒に田植え、イベント等が出来る事を、また今度会えることを楽しみにしております。

稲作コース
椿原 誠

山林コースより

2月以来の活動となった山林コース、7月は定員を少なくして下草刈りを行いました。暑さよりも大雨が心配だった7月ですが、みんなの願いが届いたのか、2回とも草刈り日和で作業もはかどりました。お昼は、食材はほとんど自家製という佐津美さんこだわりのお弁当！久しぶりの山での活動はやっぱり気持ちよかったですね。

山林コースの活動場所「ケヤキ林」では、1993年より様々な木を植え手入れを行ってきました。暑い中での下草刈りは大変ですが、植林した苗が草に負けないようにするための大事な作業です。毎年の下草刈りのおかげで、4年前に植えたスギの苗も背丈ほどになりました。ケヤキ林上方では、13年前に植えたクヌギやアカマツがずいぶんと大きくなり、以前は有明海まで見通せていたのに、すっかり覆われて見えないほど。木の生長は時間がかかりますが、こうしてふと生長に気づくと感慨深いものがあります。今後は展望スポットを整備したいねとか、ケヤキ林を楽しむアイデアがいろいろ出てきていました。

次回の山林コースは、秋の枝打ち、間伐です。また山で汗を流しましょう！（原 愛子）

◆7月5日（日）「下草刈り①」
参加者13名（会員6、一般3、スタッフ4）
場所：ケヤキ林

◆7月26日（日）「下草刈り②」
参加者12名（会員7、一般1、スタッフ4）
場所：ケヤキ林

7/26 下草刈り

7/5 下草刈り

皆さん、お元気ですか？

新型コロナウイルス感染症の流行で色々な規制があり、今までの生活が取り戻せない日々が続いております。それに加え梅雨に入ってからの豪雨。ここ数年あちこちで数十年に一度といわれる水害が起こっています。地球温暖化の影響ですかね～。今年は長い梅雨です。

洗濯物は乾かないし、カビは繁殖するしで気分まで滅入ってしまいます。そんなこんなで、あっという間に今年も後半に入りました。我が家では、この春から就職活動スタートと新生活スタートするはずの2人の娘達がいますが、まだまだ思う様に活動できない状態が続きそうです。

何か重い暗い話題ばかりですが、ちょっと明るい話題を1つ。うちの車庫にツバメが巣作りを始めました。板で巣受けを付けてあげると2つの巣ができました。1つの巣だけでしたが、4羽の雛が孵りました。雨の中でも、親ツバメは休む事無く雛に餌を運び続けようやく先日元気に巣立って行きました。ツバメの巣作りは、久しぶりの事でホッコリできた一時の幸せでした。

山村塾の活動も、自粛で皆さんと会える機会が遠のいていますが、7月に入り山林コースでは下草刈りを行いました。参加して頂いた皆さんお疲れ様でした。予定以上の作業量で翌日は大丈夫だったでしょうか？当日の食事等色々検討事項もありましたが、お弁当配布という形をとらせて頂きました。感想など聞かせて頂きたいと思うところです。

福岡県でも、まだまだ気の抜けない状態が続いております。先日今までの感染者が合計1000人を越えたと報告があったかと思っていたら最近では1日の感染者数が過去最高の66人（7/23時点）。自分が感染しないよう、感染源にならないよう 手洗い・うがい・マスクで予防を心掛けましょう。そして、これ以上拡大しないよう、させないよう、1日も早く以前の生活に戻れるよう願っています。皆さんに会える日を楽しみにしています。

山林コース
宮園 佐津美

ボランティアレポート

この夏、日帰りボランティア活動中です！

山村塾では毎年４月から７月にかけて、「里山80日ボランティア」を開催しています。国内外からのボランティアがえがおの森に80日間滞在し、棚田の保全活動を行ってきました。

しかし今年は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、開催できなくなりました。しばらく長期滞在ボランティアを受け入れられる情勢でなかったため、「日帰りボランティア」の募集を始めました。６～７月は農作業が忙しい時期で、ラッキョウの収穫と加工、棚田の田植えと除草などの活動でボランティアを募りました。７月末までに13回実施し、延べ39名の方に参加いただきました。ラッキョウは総計約270kg収穫し、そのうち約100kgを甘酢漬けにしました。また、約45a（1360坪）の棚田の田植えと、草取り等の管理を行っています。新しい取り組みですが、おかげさまで棚田の維持管理が順調に進んでいます！

８月以降も引き続き、棚田の草刈り等のボランティアを募集しています。また、個人型の長期滞在プログラム（１ヶ月以上）と奥八女芸農ワークキャンプの２つの事業を開催予定です。詳細はホームページをご覧ください。

◆日帰りボランティア 活動内容と参加者数

- 6/6（土）らっきょうしごと：2名
- 6/7（日）らっきょうしごと：4名
- 6/16（火）らっきょうしごと：3名
- 6/17（水）らっきょうしごと：2名
- 6/20（土）棚田の田植え：7名
- 6/24（水）稲の補植：2名
- 6/27（土）らっきょうしごと：2名
- 7/4（土）らっきょうしごと：5名
- 7/14（火）らっきょうしごと：1名
- 7/15（水）らっきょうしごと：5名
- 7/22（水）らっきょうしごと：1名
- 7/23（木）田んぼの草取り：2名
- 7/29（水）田んぼの草取り：3名

らっきょう切りそろえ作業中

ボランティアの声

岩村きらら

今年は合宿ボランティアが開催できなかったので、去年参加した岩村さんに寄稿いただきました！

こんにちは！昨年の夏にボランティアプログラムに参加しました、岩村きららです。現在は大学４年生で、東京で暮らしています。私は、里山80日間ボランティアというプログラムのうち6/6~7/15で短い期間かつ途中参加だったのですが、ボランティアメンバーや地域の方々に温かく迎え入れていただき、笠原で楽しい時間を過ごすことができました。田植えの時期にボランティアに参加していたため、今度は稲刈りの時期に笠原を訪れたいと思っています。

ボランティアでの思い出はたくさんありますが、その中でも印象的なのは、ラッキョウ漬けの作業です。ラッキョウを漬ける準備のために、根を切り、皮をむく作業をしたのですが、作業後はラッキョウの匂いが体にしみこんでいました。今ではそれが懐かしいです。作業中は音楽をかけたり、話をしたり。私のお気に入りの時間でした。また、ボランティア期間中の食卓には必ず山村塾のラッキョウ漬けが出てきて、大好きになりました！

私は、自らの視野をより広げたいと思い、大学を１年間休学し、ボランティアをしながら旅をしていました。その時に訪れた場所のひとつが笠原です。もともと、地域活性化について興味があったのですが、実際に地域と向き合う人々の姿を間近で見て、地域の目線に立って、地域のことを考えられるような人になりたいと思いました。また、他のボランティアメンバーとの共同生活を通して、協力や気づかいの大切さを改めて学ぶことができました。

現在は、コロナの影響で大学に通うことができないため、家で卒業論文に取り組んでいます。大学卒業後の進路も見えてきて、一歩ずつ進み始めたところです。コロナの影響によって、様々なことが変化し、当たり前であったことがそうではなくなりました。しかし、そのような中でも、ポジティブに、私は私のできることをコツコツやっていきたいと思います。そして、コロナが収束したら、また笠原を訪れたいです！

新型コロナ以降の生活変容

ファン ポウェイ

笠原に来て３年目に入りました。２年間の経験を踏まえ、今年もより一層努力をしようと思っていました。ところが新型コロナの感染拡大が起こり、自分が担当するボランティア活動はほとんど進みませんでした。感染症の発症は田舎に起こっていなくでも、経済や社会の雰囲気などの打撃はまさに受けています。

振り返ると、この数年間に九州は様々な自然災害を受けています。大学院に通っていた時にも、熊本震災、九州北部豪雨が起こり、「持続可能」、「強靭性」などの言葉がよく議論されました。実は、はるかな昔から、農業文化は河川の氾濫や地震などの天災と共存してきました。したがって、農村地域は人間が作った環境の中で最も強く、柔軟性のあるものだと思います。今回のコロナに当たっても、３密になりにくいスケールを有します。

災害に強い特質を持っていても、農村への重要視は下がりつつ、荒れた田畑、森が年々増えています。そのため、政府、民間は力を入れています。自分は山村塾と出会って、ボランティアワークや農林業体験などの取り組みを知りました。スタッフになり、仕事を通じて農村のことを学び続けています。その中で、季節に合わせスケジュールを組むこと、天気の具合で作業を入れ替えること、ボランティアの状態と合わせてワークを調整することなどアレンジが大事です。農村と同様に、その中で働いている者も柔軟性を持たないといけないです。

４月以降、長期滞在のボランティアプロジェクトがいないことで、毎日半分農作業のパターンで勤めています。例年より仕事は落ち着いていますが、プライベートの生活のペースが荒れてくる気がします。時間を有効にする意味で、畑と勉強を始めています。しかし、やりすぎると、また仕事に影響を与える恐れがあります。バランスよく、自分の柔軟性も頑張りたいと思います。

わたしを囲む風景

原 愛子

なんで笠原に住むの？って聞かれたら、「棚田があるから」って答えるかも。

この春、山村塾もイベント休止となり、突如ぽっかりと空いた時間にとまどい不安に襲われました。集い交流することが、だめだと言われるような時がくるとは。これまでのような活動が、いつまたできるんだろう…。

けれども季節は春。外に出ればウグイスが元気にさえずり、植物は芽吹き、様々な花がリレーのように咲いていきます。農家さんもそれに応えるように田畑を耕したり、お茶摘みの準備を始めたり。ああそうか、自然はいつもどおりなんだなあ…とほっとしました。そして、家のまわりを毎日歩きまわってみることにしました。家の前から山に伸びているあの道、車でしか通ったことのなかったこの道…。笠原に住んで５年になりますが、歩くたびに新鮮な発見がありました。〝笠原の風景〟は、川に沿って連なる棚田と茶畑、それらを囲む常緑の山々から成り立ちます。マスクを外し、風景にふれあうように歩くことで、心身ともにずいぶん元気をもらいました。歩くって大事！

私を囲む風景が、ビルでなく〝棚田〟でよかった。そりゃあ不便も色々あるけれども。―笠原に住もうと思った５年前の私を褒めたくなった春でした。早く、またみなさんと棚田で集えますように！

写真／標高 450 mにある屋敷地区の棚田。
4/7 撮影。今年はレンゲの花がきれいでした！

◆これからの山村塾

３つのプロジェクト進行中！参加者を募集しているものもあります。詳しくはホームページをご覧ください。

- 福岡県自伐林家育成研修（8 月～ 2 月）
- 福岡県森林づくり活動安全講習会（7 月～ 1 月）
- 奥八女芸農プロジェクト（8 月～ 10 月）

編集後記

今回の山村塾通信は７月号ですが、８月の発行となりました。大変お待たせいたしました。いつもと違う夏ですが、イベントも少しずつ再開し、山村塾も賑やかになってきました！（原）

山村塾ホームページ

山村塾 検索

事務局より

認定 NPO 法人山村塾　会員募集！

●会員の種類は、総会での議決権を持つ正会員と議決権を持たない賛助会員の 2 種類です。

●いっしょに田んぼや山で働く**活動コース会員**（稲作・山林、稲作、稲作 30kg、山林、古里）も、いつでも募集しています！

ご寄付のお願い

山村塾の活動は、皆様からのご寄付で支えられています。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

＜ヤマヤマ基金＞農山村の環境を守る活動全般に役立てられます。

＜平成 29 年豪雨支援＞山村塾では寄付を活用し、朝倉市黒川地区の復興を支援します。

ご寄附の方法

■郵便振込口座から

加入者名：特定非営利活動法人山村塾

口座番号：０１７９０－３－１６９３９８

※通信欄にどちらのへのご寄付かご記入下さい。

■銀行から

銀行名：ゆうちょ銀行　店名：一七九（店番：１７９）

口座：当座　０１６９３９８

※銀行からお振込みされた方は、お名前とご住所またはメールアドレス、寄付先をお知らせ下さい。

■農産物を買う

会員の方が、椿原家と宮園家の農産物・林産物を購入されると、その一割が**ヤマヤマ基金**へ入ります。

■古本で寄付ができます！

古本や DVD を「きしゃぽん」にお送りいただくと、買取金額が山村塾への寄付となります。ぜひご協力をお願いします。（古本集荷依頼 TEL：0120-29-7000、山村塾に寄付したい旨をお伝えください。）

◎年会費納入

以下の方々から年会費を納入いただきました。ありがとうございます。（6/30 入金まで。敬称略）

■正会員：西村茂、八幡憲一郎、吉田博幸、木村陽子、敷島篤子、石津和紀、森山正、椿原寿之、椿原まり子、福岡翔学館高等学院川原秀之、田中久昭、平島道明、小森文子、小森耕太、宮園佐津美、宮園福夫

■賛助会員：畠本記子、久保健、下里さゆり、堀博子、北島みどり、柏田智、前薗良一、境弘次、熊本咲子、間辺千里、園村弘、静間純、井上俊次、柿原孝子

■活動コース会員：【稲作・山林】木村陽子、森山正【稲作】石津和紀、岩田好司、敷島篤子、下里さゆり、畠本記子、平島道明、本田範隆、八幡憲一郎【稲作 30kg】柿原孝子、熊本咲子、田中久昭、冨吉満之、西村茂【山林】福岡翔学館高等学院川原秀之、小森文子、前薗良一【古里】久保健、静間純

◎寄付者

以下の方々から頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。（6/30 入金まで。敬称略）

■ヤマヤマ基金：西村茂、八幡憲一郎、久保健、森永唯、森永拓、成冨千歳、森永哲夫、ファンポウェイ、Meiyin Chen、HsiangHsin HuangTsai、松雪清人、石津和紀、下里さおり、藤村ヒカリ、前薗良一、柏田智、福岡翔学館高等学院川原秀之、田中久昭、境弘次、鳴滝隆史、豊国寛隆、川﨑章恵、静間純、末次雄司、井上俊次、脊川歌子、末吉祥子、久保健、松雪清人、下里さゆり、北島みどり

■笠原復興基金：かってに林業を応援する会

■平成 29 年豪雨支援寄付金：久保健、松雪清人、下里さゆり

◎企業・団体からの寄付

■ 6/30、KDDI 株式会社様から 249,600 円のご寄附（社会貢献活動「＋αプロジェクト」）をいただきました。棚田や森林の保全活動に活用させていただきます。

■古本募金きしゃぽん様を通じてご寄附をいただきました。（4/27：796 円、5/27：8,127 円、6/19：9,075 円）

山村塾の今後の予定

日程	行事名
8/23（日）	稲作コース「鴨の引き上げ」
8/29（土）～ 30（日）	里山ミニワーク「棚田の草刈り」
10/11（日）	稲作コース「稲刈り」
10/18 日）	山林コース「枝打ち」
10/24（土）～ 25（日）	全体行事「鴨さばき」
11/8（日）	全体行事「収穫祭」
11/21（土）~22（日）	里山ミニワーク「炭焼き・間伐」
11/22（日）	山林コース「間伐」

※イベントの開催については状況に応じて随時判断し、ホームページ、メールニュース等でお知らせします。詳細はお問い合わせください。

＼お問い合わせ大歓迎！／

こめづくり もりづくり ひとづくり 山村塾　**認定 NPO 法人 山村塾**

〒 834-1222　福岡県八女市黒木町笠原 9836-1

TEL・FAX 0943-42-4300

Email：info@sansonjuku.com　**HP** https://sansonjuku.com

FB　https://www.facebook.com/sansonjuku

発行者：小森 耕太

編集者：原 愛子

※山村塾は認定 NPO 法人です。山村塾へのご寄付は寄付金控除の対象となります。